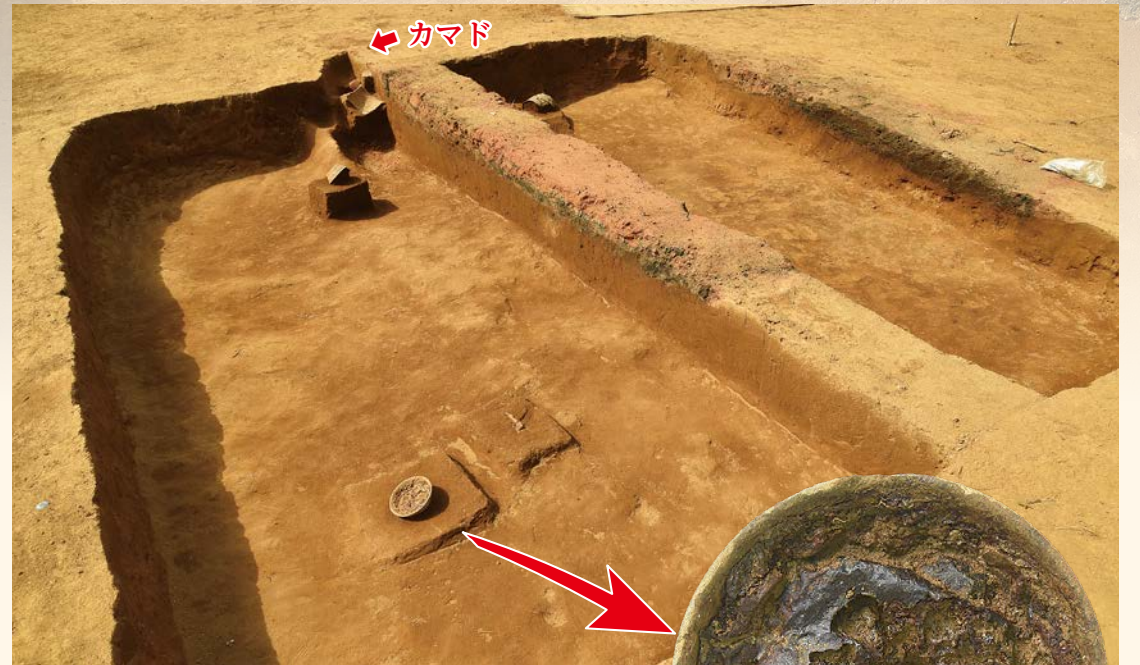


京都府立総合資料館 京大博物館 京大文学部 京大経済学部 京大法学部 京大工学部 京大農学部 京大医学部 京大歯学部 京大薬学部 京大獣医学部 京大工学部 京大農学部 京大医学部 京大歯学部 京大薬学部 京大獣医学部

「**7月8日(月)**」と「**6月19日(金)**」
 会場：1号館展示室（京大文学部）京大総合展示館
 入場料：大人 500円、学生 300円、小児 100円
 予約：03-3812-2111（受付時間：10:00～17:00）
 主催：京大文学部、京大総合展示館、京大博物館、京大経済学部、京大法学部、京大工学部、京大農学部、京大医学部、京大歯学部、京大薬学部、京大獣医学部



A shallow, wide, bowl-shaped object made of a light brown, textured material, possibly wood or stone, with a slightly irregular rim. The surface shows some wear and a mottled appearance.

このような漆関連の遺物は、村の近くに漆林が存在し、漆職人がいたことを物語っています。

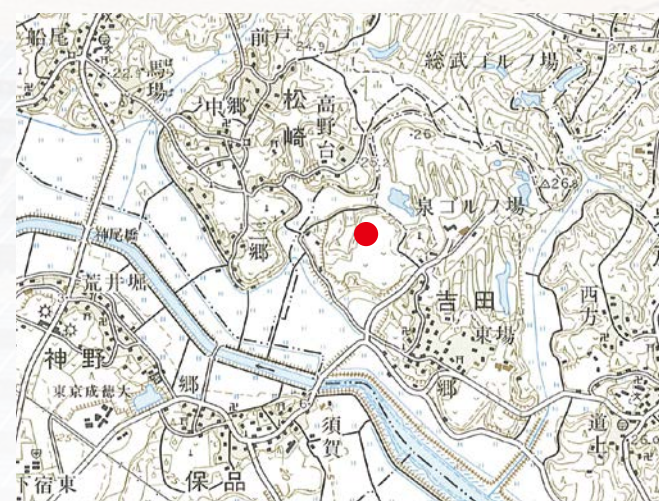
にしのはら 西ノ原第3遺跡



西ノ原第3遺跡遠景（北から）

西ノ原第3遺跡は印西市吉田に所在し、印旛沼北岸の標高約25mの台地上に位置しています。印西市の中間処理施設建設に伴う埋蔵文化財調査が平成30年度から行われ、北側と南側に分けて合計約16,000㎡を調査しました。

調査区南側では縄文時代中期の竪穴住居跡1軒、縄文時代の陥し穴1基、中世の溝状遺構3条・方形竪穴状遺構4基・土坑墓・火葬施設、調査区北側では弥生時代後期の竪穴住居跡3軒、このほか調査区全体で30余りの土坑が見つかりました。



遺跡の位置（1/50,000）



写真1：調査区南側



写真2：3号方形竪穴状遺構（右）・土坑墓（左）



写真3：土坑墓

このうち、南側の土坑の中には、常滑焼の甕が出土した土坑墓(写真3)や火葬施設(写真4)、方形竪穴状遺構がまとまって確認されました。方形竪穴状遺構は一辺が2～4mの長方形もしくは正方形を呈し、最も深い3号方形竪穴状遺構(写真2)で約1mを測ります。壁は垂直に成形され、底面はほぼ平坦で一部踏み固められています。

これらを取り囲むように、1号溝が曲線を描いて掘られています。さらに、1号溝を拡張するように後から2号溝が掘られたことが重複関係からわかりました(写真1)。これらの2条の溝の断面はV字状を呈し、幅は約2m、深さは約30～50cmを測ります。内側を墓域として区画するために溝が掘られていた可能性があります。方形竪穴状遺構は一時的に遺体を安置するための施設だったのかもしれませんが。

また、すぐ北側には、直径約4mの縄文時代中期の竪穴住居跡(写真5)があり、出土した土器から中期のものであることがわかりました。縄文時代の陥し穴(写真6)だけは西側の離れた場所に位置し、直径・深さともに約2mもあります。

このように、異なる時代の遺構がいずれも調査範囲の東側に集中していたことから、さらに調査範囲外にも遺構が広がると考えられます。

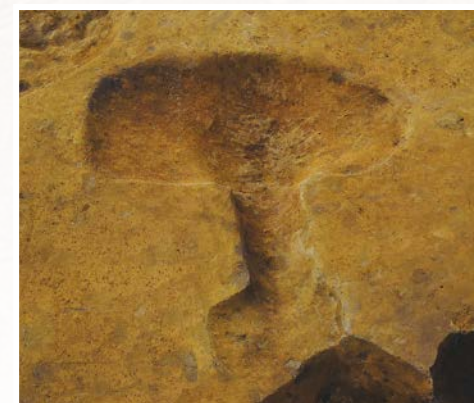


写真4：火葬施設



写真5：縄文時代中期竪穴住居跡



写真6：縄文時代陥し穴